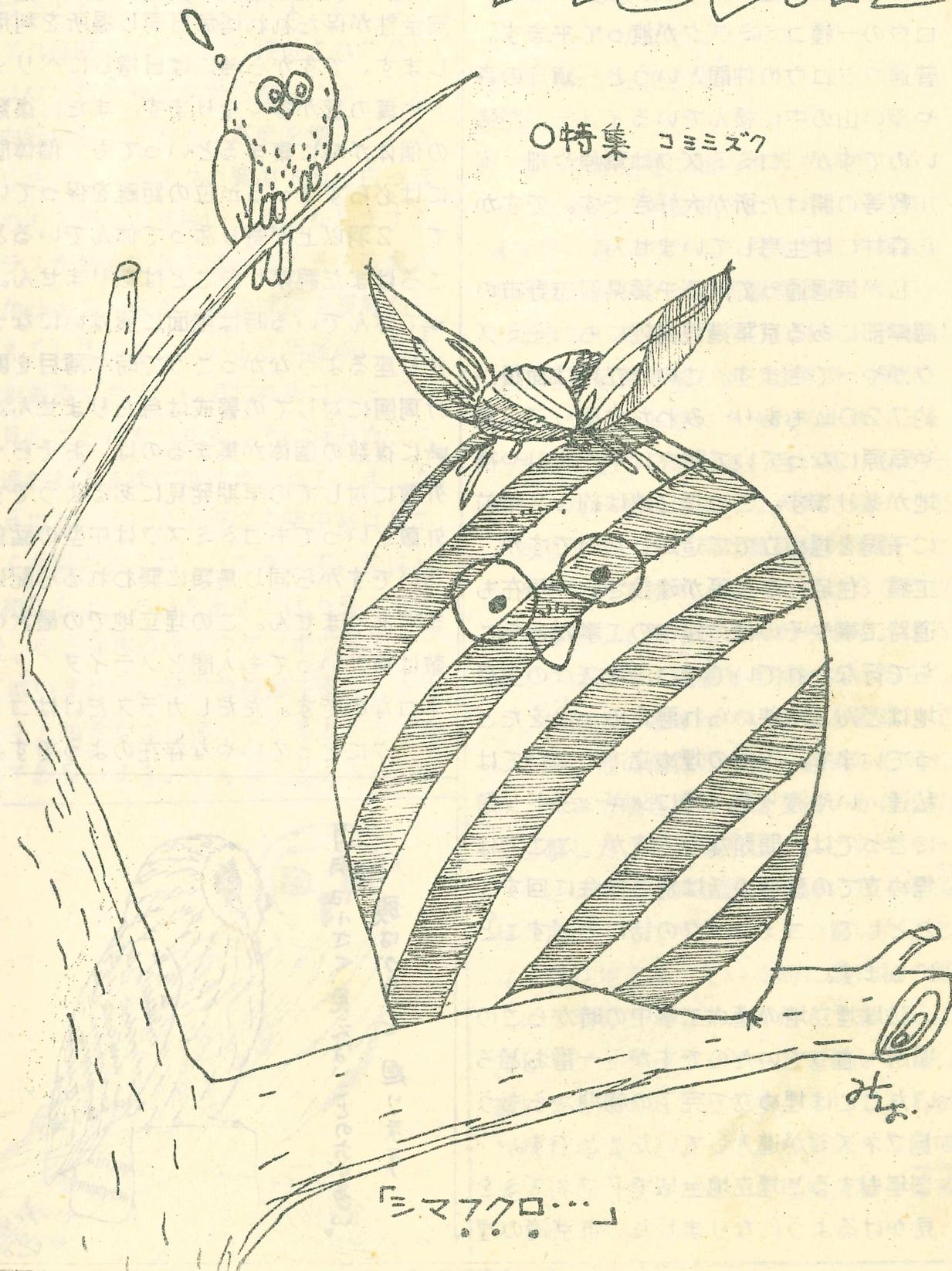


すず物通信 35

1985.12

○特集 コミミズク



「シマ770...」

特集記事

コムミズク

東京湾のコムミズク 石川 勉

秋も深まり 木枯しの季節を向かえる頃になると 遠くシベリアの方からフクロウの一種コムミズクが渡って来ます。普通フクロウの仲間という 鎮守の森や深い山の中に棲んでいるイメージが強いのですが コムミズクは草原や畑 河川敷等の開けた所が大好きです。ですから森林には生息していません。

私が毎週通っている千葉県習志野市の海岸部にある京葉港埋立地にもコムミズクがやってきます。この埋立地は面積が約720haもあり みわたす限りアシ原や草原になっていて所々に水たまりや裸地があります。この埋立地は約12年前に干潟を埋め立てて造成したのですが 工場 住宅 学校等が建設され 現在も道路工事やその他の建物の工事があちこちで行なわれていて コムミズクの生息地はどんどん狭められ悪化の一途をたどっています。干潟の埋め立てについては私達 いや渡り鳥 特にシギ チドリ類にとっては大問題なのですが ここでは埋め立ての善悪の話は別の機会に回すこととして コムミズクの話にもどすことにします。

私は埋立地の造成工事中の時からこの場所へ通っていたのですが 一番おどろいたことは埋め立て完了の初期からもうドブネズミが進入していたことです。2年もすると埋立地全域でドブネズミを見かけるようになりました。東京湾の埋

立地で越冬するコムミズクはこのドブネズミを主食にしているようです。

昼間は丈の低い草地や裸地で休息しています。1羽で休んでいることもありますが 多い時には5~8羽が集まって休息していることもあります。時(ねぐら)は通常 周辺に環境の変化がなかったり安全性が保たれれば毎日同じ場所を利用します。ですから時には日増しにペリトや糞の量が多くなります。また 復数の個体が時に集まるといっても 個体間には必ず1~5m位の距離を保っていて 2羽以上が寄り添って休んでいるところはまだ観察したことはありません。時で休んでいる時は地面に腹ばいになったり座るようなかっこうで時々薄目を開け周囲に対しての警戒は怠りません。時に復数の個体が集まるのは おそらく外敵に対しての早期発見にあるようです。外敵といってもコムミズクは中型の猛禽るいですから同じ鳥類に襲われる心配はまずありません。この埋立地での最大の敵は何といっても人間とノライヌ ノラネコなのです。ただしカラスだけはコムミズクにとっていやな存在のようです。

耳羽は小さく、見えないことの方が多
頭はぐらりと廻ります



kei

以前こんな光景を見たことがあります。草原でゴルフの練習をしていた人があらぬ方向へ飛んでいったボールを拾いに行くと 足元からフワッと1羽のコムミズクが飛び立ちました。ちょうど運悪くその近くに2羽のカラスがいて目ざとく見つけると すぐに追いかけてきました。コムミズクは時々カラスに大接近されながらもフワフワと飛びながら左右にゆっくり方向転換し どんどん高度を増していききました。コムミズクの翼の下面は白っぽいで1羽なら見失いそうになりますがカラスが執拗に後を追うのでその位置がわかります。やがて3羽は私の視界から消えてしまいました。10年程前にも冬の北海道でカラスに追われるコムミズクを見たことがあります。その時もカラスに追われるままに逃げまわっていました。チョウゲンボウとカラスの空中戦は見ていても胸がわくわくしてきます。やはり最初にちょっかいを出すのはカラスですが 小さな体のチョウゲンボウもだまっではいけません。時々急旋回すると キキキキと鳴きながら追ってくるカラスに向けて反撃します。こんなことを2~3回

繰り返すとさすがのカラスもあきらめて帰って行きます。コムミズクが何の抵抗もしないでただ逃げまわるのは 明かるい日中では歩が悪いことを悟っているからなのかも知れません。それにしても1回でもいいからカラスに対して あつと驚くような反撃をしてくればコムミズクファンの私などは大声で「アッパレー」と言いながら拍手喝采してしまうでしょうネ。

やがて埋立地に闇の世界が訪ずれるころになると 時を飛び出したコムミズク達は思い思いの方向へ飛んで行きます。夜のコムミズクは昼間観察するイメージとはかなりの違いがみられます。夜間は埋立地を低空で飛び回りますが 昼間に比べてスピード感にあふれています。たまに上空で2羽が追い合いをしながらギャーウーと叫ぶような大声で鳴くことがあります。この声は数回続けて聞くことが多いのですが 長い時には30回以上も連続して聞くこともあります。コムミズクは夜間に縄張りを持っているらしく 杭の上にとまっている姿を観察している時に他の個体が上空を通過した時にも 大声で鳴きながら後を追いかけるのを目撃したことがあります。このギャーウーという鳴き声は他の個体に対する威嚇の声のようです。もう一つ驚いたことは 埋立地を歩いている時に急に私の頭上に1羽のコムミズクが飛んで来て私に対してゲッゲッゲッゲッと連続して20回以上も鳴いたことです。そして15m程離れた杭へとまってからも2~3回鳴きました。きっと何かの理由で私を警戒したのでしょう。



kei

昼間はとても警戒心が強いのですが夜になると急に大胆になります。杭の上などにとまっている時にはそおっと近づけば1.0m位まで寄れることもあります。懐中電灯を向けてもいやがるそぶりはみられません。工事中の道路をバイクでゆっくり走っている時に道路に沿って所々に積んである土砂の上の一つにコミミズクがとまっていたことがありました。バイクをとめて近くから観察しているとコミミズクはじっとしたまま頭を左右に動かして周囲をうかがっています。



きつとネズミを探しているのでしょうか。しばらくして道路に沿って地面すれすれに飛ぶと3.0m程離れた別の土砂の上に降りました。そしてまた周囲をうかがっています。もう一度同じような事を繰り返してから闇の中へ消えて行きました。結局この時は1時間近くも観察できたのですが餌を捕る場面は見られませんでした。この場所は道路に沿ってアシ原が刈り取られていて見通しが良いため餌を探すコースになっているのかも知れません。

スをうかがっていたのでしょうか。

コミミズクは飛びながらネズミを見つけて捕えることもしますが私の観察では杭や土くれの上にとまっていたネズミを見つけると不意をついて捕える待ち伏せ型の捕食方法を使用するほうが多いように思えます。一般にフクロウの仲間は目と耳が非常に発達していて闇夜でも的確に餌を捕えることができます。

満月の夜の埋立地は月光が映えてとても明るくなります。そんなある夜私の頭上を飛んだコミミズクがアシ原上空1.0m位の所でホバリングを始めました。冬枯れのアシ原は上から見るとネズミが動くのが見えるのかも知れません。このコミミズクは移動～ホバリングを3回も繰り返しましたが餌を捕ることはできませんでした。たとえ上空からネズミを見つけてもアシ原の中へ飛び込んだら大事な目や翼を傷つけてしまう恐れがありますからホバリングをしながらチャン

それと飛んだ時に羽音がしないので気付かれずに獲物に近付くことができます。ネズミを襲うと鋭い爪を立てて締め殺します。小さなネズミなどは丸呑みにしてしましますが大きなネズミの場合は1時間近くもかけて小さく引きちぎって食べます。場で大きなドブネズミの半分だけの死体を見つけたことが2回あります。食べきれなかった時は鳩まで運ぶことも考えられます。

猛禽類は骨、毛、羽毛、昆虫のキチン質等の不消化物を口からダンゴ状にして吐き出します。この不消化物をペリットと呼びます。私はコミミズクが北へ帰った後で鳩から100個のペリットを拾

ってきて調べてみました。大きさは2cm×6cm位で細長く黒い色をしています。中身はすべてネズミ類の骨と毛からなっていて鳥類の骨や羽毛は一つもありませんでした。ネズミは全んどがドブネズミのもので頭骨が25個入っていました。単純に計算するとペリット4個でネズミ1匹分ということになりますが実際にはコミミズクはネズミを殺した後切り落した頭を食べないこともありますからこの計算は正確ではありません。又小鳥の骨や羽毛が入っていなかったと決めて小鳥を食べない訳ではありませんが夜間は動き回るネズミ類のほうが捕えやすいだけのことと思います。

さてここで皆さんに質問があります。夜間に活動したコミミズクはいつたい何時ごろに鳩に帰ってくるのでしょうか。次の中から答えなさい。

- ①夜明け前の空が白ずんでくるころに一斉に帰ってくる。
- ②餌をたらふく食べて大満足している者から先に帰ってくる。
- ③日の出と同時に帰ってくる。

私は以前からこのことを知りたかったのです。そして昨年に5羽が鳩をとっている場所でやっと4回観察することができました。正解は①番です。日の出20～30分前の東の空が白ずんできたころに全員が10±分の間に鳩へ戻ってきます。

コミミズクの観察は主に夜間にしています。暗い中では観察もままならずいまだにわからないことが多い半面興味は寡の一方です。しかしあまり深入りしすぎると私のように婚期を速することにもなりかねません。思えば暗く寒い夜を1人で何回費したでしょうか。でも私にも38年目にしてようやく本当の春が……。

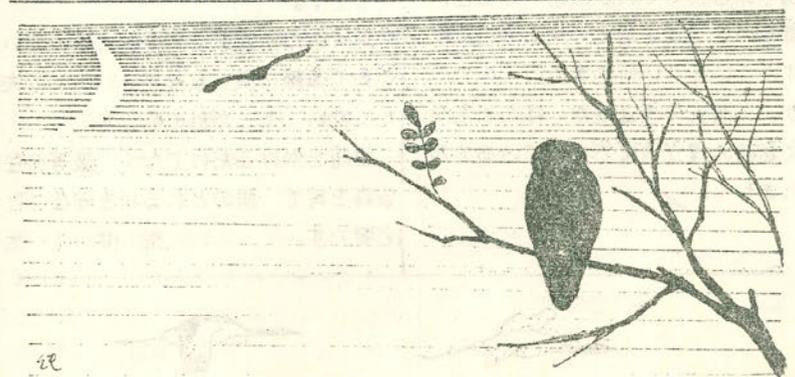
【注意】

※夜間1人で埋立地へ行くことはとても危険です。特に子供や女性の1人歩きは絶対にしないで下さい。

—編集部より—

石川さんは12月8日に御結婚されました。これからは奥様となられた方にあまり心配をかけないよう……

ほんとうに おめでとうございます。



一野鳥紳士録一

○コミミズク 日が沈み 刺す様な寒気が忍び寄り 東の空に偉大な狩人オリオンが姿を見せる頃 鴨場の闇を抜けて西へ飛び去るいくつかの影。この影は日中鴨場をネグラとする鳥達で この中にはゴイサギ トラフズク コミミズク等がいると思われます。そこで今回はコミミズクについて。漢字では「小耳木兎」「ずく」というのは フクロウの古語「つく」から来ています。奄美大島ではフクロウの声を「ツクホー」と聞きなし そのままフクロウの呼び名になっているそうです。したがって「ツク」という呼び方は鳴声の聞きなしに由来しているのではないかと思います。英名は「Short-eared Owl」小さな耳を持つフクロウという意味です。学名は「Asio flammeus」属名のAsioはラテン語のaxio(ミミズク)が語源です。種小名のflammeusはラテン語のflamma(炎)が語源で 炎色という意味です。これは黄褐色をした羽毛の色からこう名付けられました。

鴨場で休むコミミズクは暗くなると保護区裏手の住宅街を越えて飛んでいくようですが いったい何処まで行くのでしょうか。浦安の埋立地か はたまた川を越え葛西の埋立地まで行っているのかもしれない。



○シマフクロウ 「人工の巣箱で育った」11月2日付の朝日新聞に こんな見出しでシマフクロウの巣箱での繁殖例の記事が出ていました。全長70cm 木に止まったその姿は 犬位もあるという巨大なフクロウです。漢字では「島隼」「島」という言葉は「北海道」を指すのではないのでしょうか。英名は「Blakiston's Fish Owl」「Blakiston's」とは 動物相の相違から津軽海峡に引かれた生物地理上の境界線「ブラキストン線」を提唱した 英国の動物学者ブラキストン氏の名から来ています。Fish-Owlというのは このフクロウが サケ等の魚を多く捕食するので こう呼ばれます。学名は「Ketupa blakistoni」属名のKetupaはジャワ語のBlo-ketupa(ジャワオミミズク)から来ています。種小名のblakistoniは英名と同じくブラキストン氏の名から来ています。

日本産鳥類の中で 第二のトキとなる可能性の大きい鳥と言われていましたが 今春 巣箱を利用し 繁殖に成功したそうです。

低く森に木霊する声 闇に輝く赤い瞳 巨大で偉厳に満ちた風貌。決して失いたくない あこがれの鳥です。

巣箱をかけるだけでなく 彼等の住める森を育て 餌のとれる川を守ることが必要です。 荒井 八太



はあと

「はばだけ29羽のセイタカシギ」
11月の新浜自然観察会で 合計29羽のセイタカシギが確認されました。この数値は当地での最高(日本でも最高では?)の羽数で 観察会にこられた方はみなよこんでいました。

29羽の確認場所の内訳は 11羽が妙典のハス田 12羽が江戸川放水路の干潟 6羽が保護区内の金魚池と北池で観察されました。おそらくは 行徳周辺には30羽以上いると思われます。

去年の最大同時観察数は、22羽でしたので少しではあるが増えているようです。しかし繁殖が確認されているところは 宮内庁鴨場の1ヶ所のみで 他の繁殖地はわかっていません。それと脚の色がサンゴ色できれいな成鳥の方が多く(約60%) 本来多いはずの幼鳥が少ないのが気がかりです。その原因としては大雨や湿地の乾燥とかの天候要因が考えられるが、繁殖に適する昆虫の多い水たまり(イヌ ネコ等がこられない場所)が、ほとんど無いことが第1原因と思われます。78年に京葉港埋立地で初めてこの地域での繁殖が確認されて以来 79、80年と幕張の埋立地で繁殖したが それらの埋立地の繁殖地が整地が進み、年々乾燥化され 建物がたったりして ほとんど無くなりつつあります。

東京の大井埋立地では 長い湿地保存運動を経て 30haの水鳥の保護区ができる予定ですが 千葉県側では 谷津干潟南に3haの草地を残す約束はあるが

広大な2000haもの幕張 京葉 浦安の埋立地には1haすらも水鳥の用の地を確保していません。

そして 冬のエサ場になっている 妙典 原木のハス田や湿地が 本年市街化区域に編入され 来年度から埋立工事がはじまるとのことです。なお近年セイタカシギのエサ場になっている江戸川放水路の小さな干潟も 釣り人などに追われエサをさがすにも大変な状態です。

埋立地や妙典に水鳥の保護区を少しでも多くつくと同時に 行徳鳥獣保護区内の セイタカアワダチソウなどが生えている乾燥した土地(本土)に 以前作ったような 淡水性の湿地(水たまり)をもっと作り セイタカシギが繁殖できるように 必要があると思います。

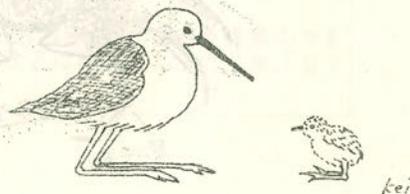
29羽のセイタカシギがもっと増えて 行徳の街にたくさんのセイタカシギが舞い飛ぶことを夢みて……

田久保 晴孝

※セイタカシギ(セイタカシギ科)

全長32cmの大形のシギで 背が黒く脚が長くサンゴ色が特徴。エサは 水中や干潟の小動物。

行徳の他に 愛知県の岡崎や鍋田地区でも繁殖しています。全国で 計数十羽が生息。



kei

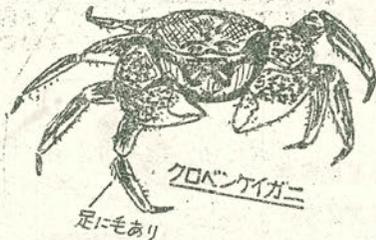
丸瀬バード・リバー 昭和60年度しゅんせつ工事説明会議事録

日時 昭和60年10月31日(木)
場所 行徳野鳥観察舎
説明 葛南土木事務所(河端、八木橋)、板橋建設
出席 友の会

1. 工期
昭和60年11月14日 -- 12月31日
今年度分の工事については、土砂(ヘドロ)の捨て場所が決まらず工期が遅れてしまいましたが、来年からは1ヶ月位早く工事を始められるよう努力する。
2. 工事場所
昨年工事範囲から40m間隔をおいて上流へ240m。
3. 工事方法
1.5m掘って1m砂で埋め戻す。
4. 安全対策
日曜・祝日を除いて全面通行止めとする。
5. 昨年度分工事との効果比較
方法について検討中。何かよい案があれば提示してほしい。
6. その他
砂置き場・ロータリーを作るので緑地帯を削ることになる。

以上の説明に対し、友の会では次のような要望を出しました。

- 1) 来年度についてはできるだけ早目に、鴨のいる時期をなるべくはずして工事にとりかかってほしい。
- 2) 安全対策については充分留意してほしい。
- 3) 通行止めの連絡・掲示を徹底してほしい。
- 4) 緑地帯を削るのは最小限にとどめてほしい。
- 5) 来年度については、ぎりぎりではなく、もう少し早めに予定を連絡してほしい。



すずがも通信・10周年記念特集号 来年1月発行予定

友の会では、野鳥観察舎・特別保全地区の10周年を記念して「すずがも通信・10周年記念特集号」を来年1月に発行する予定です。

山階芳麿先生が友の会のインタビューに応じてくださったほか、たくさんの方々から原稿をお寄せいただきました。おかげで内容も、当初の予定より数段充実した、バラエティーに富んだものになりそうで、編集部一同張り切っております。

友の会の会員の皆様には、無料でお分けしたいところなのですが、ページ数が60ページ近くになり、従来のすずがも通信と違ってタイプ・印刷・製本ともすべて外注となります。かなりの経費がかかると思われるので、会員には予定頒価1,000円以内のところを半額でお分けする予定です。野鳥観察舎でお分けいたしますが、郵送の場合は送料実費となります。御希望の方は野鳥観察舎()または東()まで御予約下さい。

なお、故高野伸二氏の奥様、高野つや子氏より、「10周年記念特集号」の発行経費として2万円の御寄付をいただきました。本当にありがとうございました。
また、友の会では「特集号」の編集をお手伝いいただける方を募集中です。年末までおいそがしいことと思っておりますが、編集などに興味のある方は東()まで御連絡ください。

スズガモ群団通行止め？その後。

運尾 純子

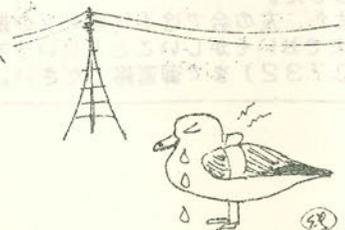
保護区と東京湾の間にあたる塩浜2～3丁目にかけて、来年開通予定の国鉄京葉線沿いに高圧鉄塔が立てられたのは今年の6月です。みるみるうちに、よっきりと立上がった鉄塔を見てびっくり仰天。このままでは東京湾へと往復しているスズガモの飛行ルートが通行止めになるか、多数の鳥が衝突死するに違いない。何とかならないかと泣きついた結果、東京電力の手で目印のリングがつけられたということを33、34号で報じました。7月中旬に電線の仮張が終って下旬には完成し、更に8月はじめにリング取付作業が行なわれました。細い避雷線1本と6本の送電線に各1人ずつ計7人の作業員がぶら下がり、ちょうど手錠のような形をしたリングを1個ずつはめていきます。全長1.9km、約80cmごとに黒いリング（本来は着雪防止用のものだそうです）。黒リング5個につき蛍光色の黄色リング1個（反射テープが巻いてある）が規則正しく取付けられました。まずはめでたし。

ところがこのリング、0.5～1km離れた観察舎からは望遠鏡で必死に焦点を合わせてもなかなか見えません。慣れてくると、ところどころに黒いしまがあるという感じで見わけられますが、思ったほど目立つものではありませんでした。黄色リングも黒く見えますし、反射テープの方は、下からサーチライトで照らすと確かにキラキラ光るのですが、ちょっと角度を変えると見えなくな

ります。カモがめいめいライトをつけて飛ぶか発光すればよいわけですが、下からの光は横からは見えず、反射テープの効果も期待できませんでした。

しかし、しかし、しかしながら、スズガモの大群が例年になく早々と保護区に入るようになって1週間ほどたった11月2日のこと、朝からしとしとと降りつづく雨で利用者も少なく、ひまができたのを幸いに見に行つて驚きました。死体が1つもなかったのです！スズガモに限らず海から入ってくる鳥はいやおうなしにこの高圧線を越えなくてはなりません。できてから日が浅く、鳥が慣れていないこともあり、あちこちに死体のごろごろしているに違いないという予想が、うれしいことに完全に外れてしまいました。全延長ではなく、盛んに工事用の車が往復している日之出町寄りの0.7kmほどをのぞいた1.2kmを歩いたのですが、本とうに1羽の死体も見つかりませんでした。高圧線の下はだいたい空地で草が生えたところもあり、一部は道路を隔てて日通や北越製紙等の倉庫などが並んでいます。

強い南東風が吹いた10月13日には明らかに電線衝突と思われるウミネコが1羽、この日通から持ち込まれました。



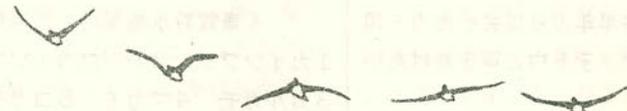
これまでのところ犠牲者（鳥？）はこの1羽だけです。

8月から11月19日現在までの約3ヶ月半で電線衝突事故と思われる入院鳥は死体を含めて22羽（入院鳥は全部で120羽）そのうち新浜嶋場のすぐ前を通る幹線の大送電線に11羽がぶつかり、行徳駅から海へのびる大通りに沿った線でも2羽、また猫実川沿いの線にも2羽が衝突していると思われます。位置、延長距離、電線の数や高低等の影響もあるわけで、いちがいに比較するものかどうかと思いますが、新設の送電線で3ヶ月半に1羽しか衝突していないというのは確かにりっぱな記録です。

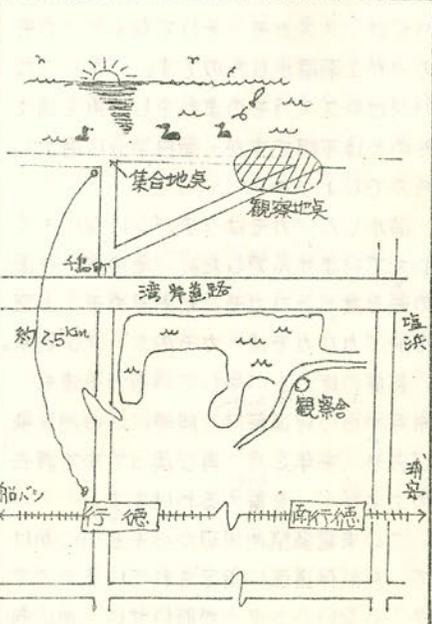
1973年12月に寺田一哉氏が調べられた結果では、江戸川放水路付近の高圧線直下で、約1ヶ月間に19羽、やや離れた位置で7羽の死体を記録したという例があります。1981年1月4日には日之出町付近で1晩に17羽が衝突、13羽は即死したという例もあります。

こうしたことから考えると、このリングつき電線での衝突事故はかなり少ないと言ってもよいようです。

東京電力では確実な効果が期待できるのなら、周囲の他の高圧線にもリングを取り付けることを検討してもよいと話しておられました。実現を切に望みます。



♡初日の出とスズガモの帰還を見る会♡
 1月1日（祝）
 集合；行徳塩浜海岸 午前5時半頃
 解散；野鳥観察舎前 午前8時頃
 案内；東西線行徳駅下車 駅前の大通りをまっすぐ南へ 徒歩約35分で海岸に出ます。
 車でおいでの方は、湾岸道路千鳥町の交差点を海の方へ、京葉線に沿ってすぐ右につきあたりが海岸です。
 新春恒例のこの行事ももう10回。85年は好天にめぐまれ、頭上数十mをスズガモ数万羽が飛ぶというおまけつき。86年はいかがあいますか？
 夜明けまえは冷え込みます。防寒の用意はしっかりと。



★カモの渡来が始まる!

小林広幸

一雨ごとに秋の深まりを感じる今日のごろ。

毎晩開催されていた虫達のコンサートも気温の低下と共に最終回に近づいてきました。

鳥達も 南国へ去る鳥 北国から渡ってくる鳥と 交代のシーズン。そこで9月29日 ホームランドの東京電力調整池へ久々に鳥見に行ってみました。

どしゃ降りの雨の中 車で調整池へ到着すると 池の周囲には釣り人が多勢陣取っておりカモ類がないのでは?と心配したのですが 車の窓をあげ望遠鏡で探すと池の片隅にいました。一安心。

今年の3月以来半年ぶりに会ったカモ類に 無事渡来オメデトウと声をかけた気分でした。

潜水採餌をするカイツブリ キンクロハジロ スズカモ そしてなんとマガモのみが1羽潜水したのです。キンクロハジロやスズガモのまねをして魚を捕えたのかは不明ですが 面白半分に潜水したのでしょうか?

潜水したマガモはクチバシになにもくわえていませんでした。その他 水面の藻を食べるコガモ ヒドリガモ 上空を飛ぶカルガモ達 カモのシーズン到来。

長旅の疲れをいやしているカモ達も 来月からの狩猟解禁と同時にこの池を飛び去り 来年3月 再び戻って来て渡去のエネルギーを蓄えるわけです。

この東電調整池周辺から千曲川にかけて 鳥獣保護区に指定されているのですが 心ないハンターが腹いせに 池に向

かって銃弾を発射させています(ゾワ早期など)。

カモ類の他 身近な鳥達が目を楽しませてくれました。 渡去前の化粧直し?とでもいうのか ツバメ イワツバメが集団で飛び込み型水浴 池の魚を狙うトビ 伊良湖を目指して飛ぶのか サシバ6羽。そして渡り移動中のヒヨドリが14羽 有刺鉄線にとまり鋭い目つきで周囲を見まわすモズの^{さくら}も。

雨の日は 車の中からのBird-Watchingもいいものです。こちらが動かないから鳥も安心して見ているみたいでした。 Bird-Watchingは やさしい気持が大切だと痛感し調整池を後にしました。

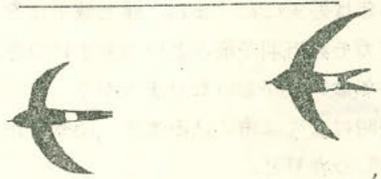
《東電貯水池周辺 出現鳥類》

- 1カイツブリ 2ハジロカイツブリ
- 3カルガモ 4マガモ 5コガモ 6ヒドリガモ 7アメリカヒドリ(♂タイプ2羽)
- 8キンクロハジロ 9スズガモ 10トビ 11サシバ 12キセキレイ 13セグロセキレイ 14ハクセキレイ 15モズ 16ヒヨドリ 17ツバメ 18イワツバメ 19スズメ 20ムクドリ 21ハシブトガラス

〈観察者 必察鳥見人こと H K〉

1985 10 6記

※小林さんはNo23の「毎日がバードウォッチング」の作者で 版画によるオオタカの表紙絵もいただきました。編集部



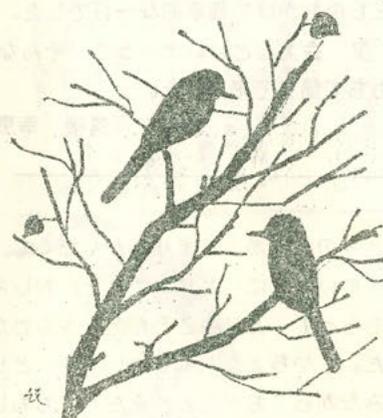
鳥の国から

☆鳥だより 運尾 純子

例年になくスズガモが早々としてきました。10月26日3万羽以上 同28日7万羽前後。10月中に万をこえたのは初めてです。東京湾におちついたところで猟銃に追われて避難してくるという例年のパターンを破って 今年はまだ直ぐに保護区に集結したようです。

まだ寒さが厳しくないで 朝陽の壮大な光景を見るには今が絶好のチャンス。 だいたい6時前後に主群が入ってくるようです。 塩浜岸壁にぜひお出かけ下さい。 ただし雨天中止 雨の日はなぜか入ってきません。

去年までの飛行ルートのまま正面に高圧線ができて どうなることかとさんざん気をもんだのですが しっかりと回避しています 去年はいったん舞上がった群は下北押~千鳥町の間で90度ターンして 50m位の高度で出ていってました。 低い時は水しぶきがふりかかるほど。 でも今年は90度どころか完全



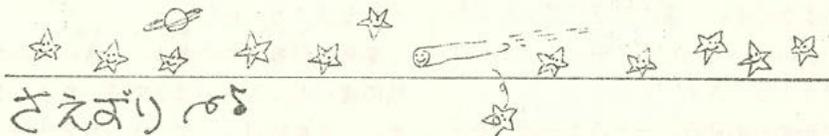
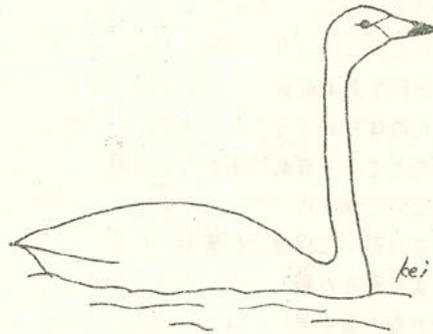
にUターンして観察舎前から上空を西にむかい 行徳高枝付近でもう一度向きをかえて海に出るようになりました。 高度もはじめのうちは百~二百m近くまで上がっていました。 今は慣れたためか百mか それ以下で電線の上を通過しています。 カモにとってはよけいな手間がかかって大変でしょうけれど 夕方早目に飛び立つ時など 見ている人間にとっては実に見事な大ページェントになります。 京葉線の高架に始まって高圧線湾岸道路と何重もの障害物を越えて せまい保護区の水面にわざわざ入ってきってくれるスズガモたち。

冬鳥の到着はやや遅め。 暖いせいから秋の渡りも11月半ばまで続いたようです。 冬鳥初認;ツグミ10月21日(海宝佐記子) そのあと一向に見られず。 ジョウビタキ;10月19日 アオジ;10月20日 ホオジロ;11月8日 ウグイス;10月26日 チュウビ;9月26日 ハイロチュウビ;9月15日 オオハシギ;10月19日より時々 アカアシギ;11月3日より時々 オオタカ;11月10日 11日いずれも1羽。

例年は9月になると野鳥病院がだいぶ手すきになるのですが なぜか今年も月30羽のペースが一向におとろえず もうしんどの何のって。 11月11日には 前日に軽井沢と秩父の山中で保護されたオオミズナギドリ!各1羽が入院してきました。 若鳥らしく 特にチチブ君(♂)はなかなか人なつこくてかわいい、でもおカルさん(♀)はくいづくのだ。 この他 やたら人を敵視してく

いついたり翼でなぐるスズガモ2羽もいるし ウミネコは6羽もたまましたし ダイ チュウ コ ゴイとサギの見本がしっかり1羽ずついるし……。脚弱症になってしまったサシバ2羽には手製の電気ストーブ 翼をいためたアジサシ2羽にはフロアヒーターをあてがって 寒さをしのがせようとしています。

十周年記念特集号のまとめが進まないよう〜！バイトさんでもボランティアでも可 助けてくれえ！SOS SOS！



さえびり

生まれて初めてのBirdwatching. ゴミゴミした都会の中で 時間と人にと追われながら 眠ることが最高の休日の様にすごしていた私に 心の休養と健康 そして鳥の美しさを感じさせてくれた一日でした。

行徳駅10時集合… 買ったばかりの双眼鏡片手に身軽に出かけた私… まずは集まった人の姿に“何とこれがBirdwatchingのプロの姿なのか…”とびっくり…と同時に私の双眼鏡でも鳥がみえるかしら？と不安になってしまいました。とにかく皆のあとをついていけば1羽位はみれるだろうと…プロの格好をした人達のあとをついていったのですが しばらくしたところで後方から

“すごい柳ねえ…”と声が聞こえました。柳をほめる 変わったプロもいるんだなあ…と何げなくふり返ると 皆が柳の方に向かって立っているのです。 あら？？とわ

けもわからず皆のマネをして双眼鏡を向けてみると 何と数えきれないほどの鳥がとまっているではありませんか。

“あんなにいっぱい 何の鳥？”と聞くとスズメのヒナでした。 何だかスズメにも初めて会った様で感激でした。

渋谷の街は 1時間も歩けばすぐに疲れてしまうのに 白いサギや可愛いシギたちのおかげで健康的な一日でした。

又 会えるといいな…って そんな気持ちで帰って来ました。

筑後 幸恵

とりのことが あまりわかんなくて ぼくのいところに とりのことを おしえてもらって とりのことがたくさんわかった。 やちょうかんさつしゃで とりをみながら おべんとうをたべておもしろかった。 にいなよういちろう

九月八日の新浜たん鳥会に行きました。この前たん鳥会じゃなくてきた時(四月二十日)には はず田にはタシギはいませんでした。 でもこんどは見られました。 はじめて見る鳥がだいぶいました。 それはタシギ エリマキシギ キョウジョシギ キアシシギ セイタカシギ キリアイトウネン タカブシギ チュウシヤクシギ オグロシギ アジサシです。 とても暑くて のどがかわいてしかたがありませんでした。

でも たくさんの鳥が見られてよかったです。 とても楽しい一日でした。

武蔵 久美子

秋も深まり 気持ちのよい毎日です。先日10月13日(日) 行徳での探鳥会では たいへんお世話になりました。ありがとうございます。

水鳥を見る機会は平素ないのですが レンズも持たずに参加しまして 皆様に示される鳥を次々に認めパンフレットとあわせながら 感嘆しておりました。ウミネコが80羽近くも はねを休めている姿 種類の違う鳥が入りみだれ憩う姿は私どもにも やすらぎを与えてくれます。 共存の姿勢を強く打ちだし その生活を守ってあげたいものと思いました。

竹村 光子

糸島集(中)記

13日の観察会では 妙興の蓮田に、セイタカシギ、アオアシシギ、オオハシシギが並んで休んでいました。(プロミナに3羽入り状態でした)。この蓮田も 来年は？行徳沖の埋立て計画も発表になりました。来年も 野鳥の生息地をまもる運動を(したい)。

○「夜、々の連綿で、まるっきりパートタイムのフクロウ生活。」
特集記事は 大ババに写数 オーバー、削るわけにいかない…もうやり直し、何とかな形になりました。来年は私も不眠(いれずね) 途。

平日通行止め - 事務局 -

丸浜ハードリバーの 今年度のしゅんせつ工事が始まりました。詳しくは 別紙の説明会議事録を御覧下さい。

尚 去年とは違い 工事期間中 工事区間は日曜 祝日を除いては 全面通行止となります。 御注意下さい。

徒歩でも 自転車でも 行徳高校脇の入口から野鳥観察舎へ入ることはできません。日曜 祝日は工事が休みとなりますので通行できますが 平日 特に土曜日などに観察舎へおいでになる時は御注意下さい。

南行徳駅から行徳高校行のバスを御利用になり 終点で下車されますと かなり強り道をしなければ観察舎には入れません。

遠くからおいでになる方は 行徳駅から徒歩か 行徳高校行のバスに乗り「福栄2丁目」で下車するコースをとってください。

行事案内。どなたでも御自由にどうぞ。

☆定例新浜探鳥会 (毎月第2日曜日)

12月8日 1月12日 2月9日

集合; 東西線行徳駅前 午前10時

解散; 行徳野鳥観察舎 午後3時頃

担当; 東 良一 田久保晴孝

持物; 昼食 飲物 バス代

めっきり寒くなりました。枯草の中でオオジュリンが甘い声で鳴いています。江戸川放水路土手で昼食ですが 風が冷たいので身仕度はしっかりと。午後はバスで観察舎へ向かいます。

☆スズガモの飛立ちを見る会

12月22日 1月26日 2月23日

集合; 行徳野鳥観察舎前 午後4時半

解散; " 午後6時半頃

今年はスズガモの数が多いので楽しみです。寒いので防寒の用意を。

☆初日の出とスズガモの帰還を見る会

1月1日 集合; 塩浜岸壁 詳細別掲

行徳塩浜岸壁前 午前5時半頃 (行徳駅 徒歩3分) 解散; 野鳥観察舎前 午前8時頃 (行徳駅 徒歩35分)

☆ニューイヤーカウント

1月5日 (日)

集合; 東西線行徳駅前 午前9時

解散; 行徳野鳥観察舎 午後2時頃

持物; 昼食 飲物 バス代

今年始めてお目にかかる鳥達。1羽1羽ていねいに数を数えて見ませんか。コースは定例新浜探鳥会と同じです。

☆定例園内観察会 (毎月第1, 3日曜)

12月1日 15日

1月5日 19日

2月2日 16日

集合; 行徳野鳥観察舎前 午後1時半

解散; " 午後4時頃

担当; 観察舎 蓮尾 協賛 友の会

今年は早々とスズカモの大群が到着。アシ原ではオオジュリン ツグミの姿が見られます。歩きやすい服装 はきものでおいください。

☆クリスマス茶話会 12月22日 (日)

場所; ; 行徳野鳥観察舎

場所; 行徳野鳥観察舎

時間; 午後5時~7時頃

会費; 1人 300円

少し早目ですが楽しいクリスマス会。300円程度のプレゼントを1人 1点ご用意下さい。今年予約が必要です。東 () まで。お忘れなく。

☆行徳野鳥観察舎休館のお知らせ

12月28日より1月3日までの間 行徳野鳥観察舎は休館となります。

☆水鳥カウント 1月15日 (祝)

保護区 妙典 原木 江戸川放水路 塩浜海岸 浦安埋立地で鳥の数を数えます。鳥を見ているだけではつまらない もう一歩進めて……という方 東 () まで御連絡下さい。初めての方も遠慮なくどうぞ。

すずかも通信 No 35 1985年12月1日発行
 振替 仙台2-6129 行徳野鳥観察舎友の会発行 年会費1000円

発行人	東 良一
事務局	鈴木裕子
編集人	田久保晴孝 新妻途夫

行徳野鳥観察舎 〒272-01 市川市福栄42211 ☎0473 (97) 9046